p.ii

Windows 98

p.14

SGML は、一部の業界を除いて必ずしも普及しませんでしたが、インターネットの普及に伴って、**HTML** は業界を問わず急速に普及しました。そこで、**SGML** を見直し、より現状に促したものにしようとして生まれたものが **XML**（**eXtensible Markup Language**）です。**XML** では、**DTD** を備える必要がなくなっています。**XML** は、**1996** 年 **11** 月に **World Wide Web Consortium**（**W3C**）に勧告案が提出され、**1998** 年 **2** 月 **10** 日に正式な勧告となりました。

p.26

なお、添付 CD–ROM に収録されているインストーラは、Windows 3.1 や MS–DOS などでは動作しません（Windows 95、Windows 98、Windows NT 4.0 での動作を確認しています）。

また、インプレス社から刊行されている書籍『縦組対応日本語 TEX for Windows』に収録されている TrueType フォントがインストールされている場合には、本書に従ってインストールが完了したあとで第 C.2.6 項「[WinJFont] ページ」(p.520) および DVIOUT のヘルプファイルを参照して、DVIOUT の設定を調整する必要があります。もし「TEX for Windows」を利用しないなら、TrueType フォントをアンインストールしておかなければなりません。

p.34

逆に、環境変数の設定を必要としない TEX の実行環境であれば、本書の添付 CD–ROM からインストールされる pTEX2.1.8 の実行環境と共存可能です。しかしながら、インプレス社から刊行されている書籍『縦組対応日本語 TEX for Windows』に収録されている TEX 環境に含まれている TrueType フォントは、本書のインストーラが想定している BaKoMa の TrueType フォントとは互換性がありません。また、インプレスの WinDvi は BaKoMa の TrueType フォントを用いることができません。そのため、「TEX for Windows」の環境と共存させるためには、インプレス社の TrueType フォントを用いるように DVIOUT の設定を調整する必要があります。調整方法の詳細は第 C.2.6 項「[WinJFont] ページ」(p.520) および DVIOUT のヘルプファイルを参照してください。

p.45

ここでは、しばらくのあいだこのダイアログボックスを操作しないでください。秀丸エディタのインストールが完了しない状態でこのダイアログボックスを操作しても、インストール作業を先に進めることはできません。また、このダイアログボックスがほかのウィンドウの陰になって見えないこともあります。秀丸エディタのインストールが終わったあと、インストール作業が継続しない場合には、ほかのウィンドウを閉じ、このダイアログボックスを表示させてから [はい] ボタンを押します。

p.59

キー定義	マクロ	機能
[F12]	texmac98.mac	各種命令の入力補助とモジュール操作をする
[Ctrl] + [[ ]		
[Ctrl] + [F]	rtex1.mac	環境命令を入力する
[Ctrl] + [D]	rtex2.mac	一般的な命令を入力する
[Ctrl] + [E]	rtex3.mac	数式関連の命令を入力する

p.62

まず、texmac98.mac を使用してみます。texmac98.mac は、TEX や LATEX で利用される多くの命令を集めたマクロで、[F12] キーまたは [Ctrl] + [[ ] キーで起動できます。

すると、Fig. 2.50 のようなメニューが表示されますので、矢印キーを使って [見出し] に移動して [Enter] キーを押すか、[見出し] に併記されているアルファベットと同じ [S] キーを押します。

- Fig. 2.50 texmac98.mac のメニュー

p.63

以上で示したように、texmac98.mac を用いると、LATEX の命令を大きな分類のなかから選択し、秀丸エディタに入力することができるようになります。このマクロを用いると、命令を忘れてしまった場合などでも、メニューに表示される簡単な説明からその命令を探し、エディタ上に入力できるので便利です。

p.68

もし、*TEXMAC* の各マクロを起動するキー操作が覚えにくいということであれば、[Ctrl] + [[ ] キーまたは [F12] キーをまず覚えてください。このキー操作によって、各種命令の入力補助とモジュール操作を可能にする texmac98.mac というマクロが起動します。このマクロは、メニューの階層が深いために入力作業に時間がかかるという欠点を有する反面、ここまでに利用してきたような各種マクロに登録されていない数多くの命令を入力する機能のほか、各種マクロを呼び出す機能も備えています。

p.69

- Fig. 2.62 texmac98.mac のメニュー

p.72

表示されたメニューは、秀丸エディタ用に作成された texmac98.mac と似た構成となっています。

p.74

残念ながら、EzTEX を利用する場合には、ワードパッドなどで保存されたファイルの名前を取得することはできません。このため、texmac98.mac のように、TEX の処理からプレビューまでを完全に自動で処理することは不可能です。

p.148

TEXMAC では、¥documentclass 命令や document 環境、プリアンブルを、メニューを選択するだけで設定することができます。これらの設定は、texmac98.mac から sset2e98.mac を呼び出すか、sset2e98.mac を単体で起動して実現します。

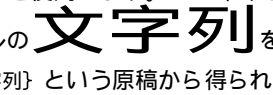
texmac98.mac のメインメニューのなかから [(D) 文書タイプ] と書かれたメニューを選択するか、sset2e98.mac を起動してください。次のようなメニューが表示されます。

p.222、244

なお、**Adobe PDF Writer** をインストールすると、**DVIOUT** から直接 **PDF** ファイルを出力することができるようになります。しかし、**TrueType** フォント以外のフォントを用いると、品質やファイルサイズで劣る **PDF** ファイルが出力されますので、この方法を用いるときには注意してください。

ちなみに、家庭用テレビの画像信号では、**Y** 信号 (明るさ) **U** 信号 (青み) **V** 信号 (赤み) を用いた **YUV** モデルが用いられています。人間の目は明るさに敏感に反応しますので、明るさの情報を分離したほうが処理上効率がよいのです。この方式を利用すると、色の情報を高速に伝えることができ、画像データでも **JPEG** がこの方式を採用しています。

p.235

また、拡大率ではなく、明示的に長さを指定して拡大または縮小したい場合には、¥resizebox 命令を使用します。この命令を使用すると、たとえば、高さ 6 ミリメートル、横幅 3 センチメートルの  を出力することも可能です。この出力は、¥resizebox{3cm}{6mm}{文字列} という原稿から得られます。

p.279

¥begin{tabularx}{*width*}[*pos*]{*cols*}

6) ただし、EPS ファイルを編集可能なアプリケーションソフトを所有しているのであれば、それを使ってトリミングした図版を作成し、前項で説明したような単純な方法で貼り込んだほうが、作業自体は楽でしょう。そのほか、Ghostscript を利用して EPS ファイルの %%BoundingBox パラメータを編集し、貼り込む方法も一般的といえます。なお、Ghostscript を利用して EPS ファイルの%%BoundingBox パラメータを編集する方法については、江口庄英著『Ghostscript Another Manual』(文献 [11]) で詳しく説明されています。

p.421

秀丸エディタと *TEXMAC* を使用している場合には、秀丸エディタを起動してください。そして、texmac98.mac のメインメニューから [(D) 文書タイプ] を選択するか、sset2e98.mac を起動します。いくつかの質問に答え、好みの文書スタイルを設定すると、秀丸エディタに、たとえば次のように入力されます (秀丸エディタ以外のエディタを使用している場合は、適宜同様の入力を行ってください)。

p.423

親ファイルを登録ファイルに指定するには、まず、秀丸エディタから texmac98.mac を起動してメインメニューから [(C) TeX の処理] を選ぶか、texcom98.mac を単独で起動させてください。

p.424

まず、秀丸エディタから texmac98.mac を起動してメインメニューから [(C) TeX の処理] を選ぶか、texcom98.mac を単独で起動させてください。

p.452

先に述べたように、texmac98.mac を使用している場合には、メインメニューの [(C) TeX の処理] から [(T) 現在のファイルを TeX で処理] や [(P) 登録ファイルを TeX で処理] を選ぶことにより、必要に応じて自動的に LaTeX や mendex.exe で処理されます。

p.453

texmac98.mac の使用時は GUI シェルにより mendex.exe が自動で起動されますが、そうでない場合は次のいずれかの方法によって mendex.exe で索引原稿を生成しなければなりません。

p.534

解像度	出力装置 (プリンタ)	モード名
96dpi	Atari 社プレビューア	atarins
118dpi	MS–DOS 画面	pcprevw
160dpi	NEC PC–PR201	nectzo
180dpi	EPSON LQ–500	lqlores
200dpi	G3 FAX	highfax
240dpi	Symbolics LGP-10	canonlbp
300dpi	Canon CX, SX, LBP-LX シリーズ	CanonCX
320dpi	NEC PC-PR406LM	neclm
360dpi	NEC-P6	nechi
400dpi	NeXT Newgen	nexthi
600dpi	LaserWriter Pro 630	canonex
720dpi	Epson Stylus Pro	esphi
1200dpi	Ultre∗setter	ultre
2400dpi	Ultre∗setter	supre

p.562
1998 年 11 月 26 日 初版　　第 2 刷　発行